

中央社会保険医療協議会・薬価専門部会 意見陳述 資料

2023年9月20日



一般社団法人 日本医薬品卸売業連合会

医薬品卸を取り巻く環境の変化

参考:2022年度の医薬品卸の営業利益率:0.8%

薬価改定(6年連続)

単価 ↓

過去4年度平均市場伸長率*:+0.6%
2022年度薬価改定率**:-6.69%

出荷調整への
対応

コスト ↑

総労働時間内割合***:19%
年間人件費換算***:548億円
若年層人材の離職への影響大

物価高騰・
2024年問題

コスト ↑

物価指数****:+3.1%
トラックドライバーの年間時間外
労働時間の上限規制:960時間へ

採用難
・高離職率

担い手 ↓

新卒採用の応募者が減少している
と認識している卸の割合***** :76%
過去一年間に退職(転職)を
検討した従業員の割合*****:55%

公定価格(薬価)においてコスト増加を価格転嫁しにくい制度・政策になっている

出典: *クレコンR&C社データ(医療用医薬品卸売ベース2020年度・2021年度・2022年度)、**厚生労働省発表、***クレコンR&C社による「第2回出荷調整品の対応で医薬品卸企業に発生する追加業務に関する調査」(2022年5月)、****総務省発表 消費者物価指数 全国2023年7月分の生鮮食品を除く総合の前年同月比、*****日本医薬品卸売業連合会による会員構成員企業45社を対象とした「医薬品卸の新卒採用・離職・背景に係るアンケート調査」(2023年9月) ****ハルスケア産業プラットフォーム(医薬・医療機器・医薬品卸・OTC・化粧品関連労働組合政策推進協同協議会)による「医薬品卸の退職(転職)実態にかかる緊急調査」(中間報告:8月22日時点の2,740名の回答)

医療用医薬品の単位薬価帯別市場構成

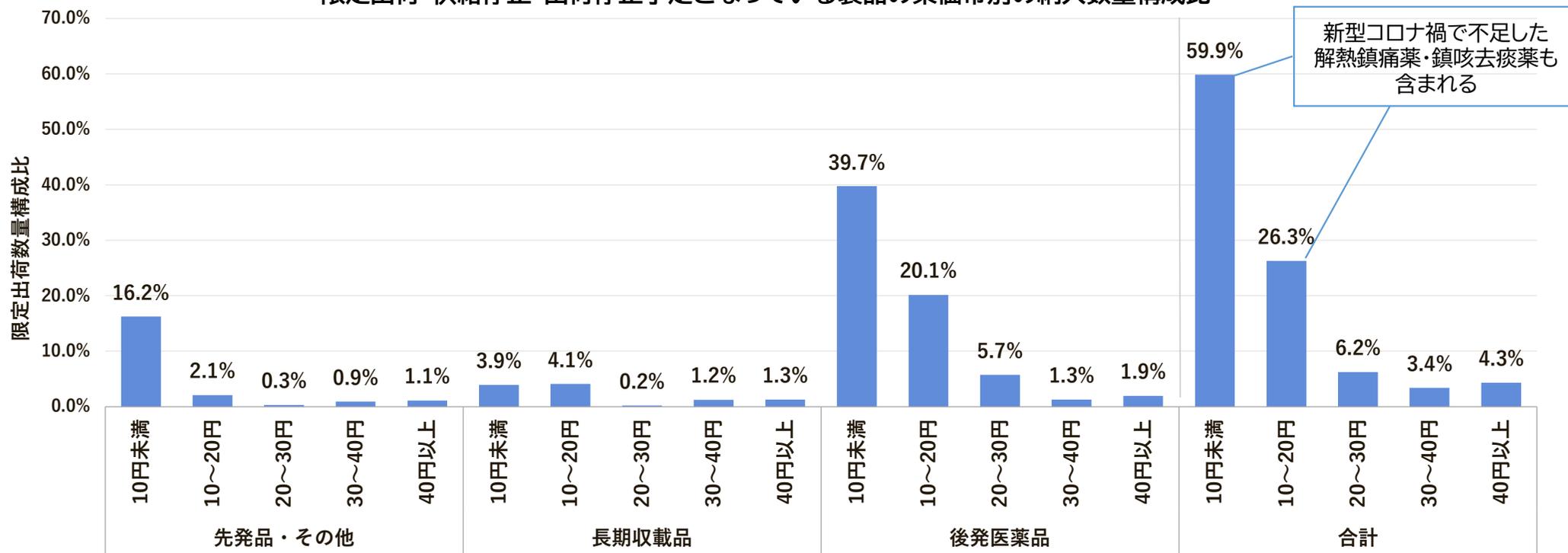
医療用医薬品市場においては、薬価20円未満品の品目数(包装単位別)が49%を占め、金額(薬価ベース)では10%を占めている。

単位薬価	規格容量別品目数 (製品小分類)		包装単位別品目数		流通金額 2022年4月～2023年03月 (億円:薬価ベース)	
	品目数	割合	品目数	割合	金額	割合
10円未満	2,865	17%	6,093	20%	4,065	4%
10円以上20円未満	4,261	25%	8,675	29%	5,871	6%
20円以上100円未満	4,994	29%	8,637	29%	14,187	14%
100円以上1000円未満	2,691	16%	3,936	13%	25,948	26%
1000円以上10万円未満	2,119	12%	2,475	8%	33,638	34%
10万円以上100万円未満	232	1%	239	1%	14,437	15%
100万円以上	31	0%	47	0%	1,072	1%
単位薬価なし	2	0%	33	0%	48	0%
総計	17,138	100%	30,135	100%	99,266	100%

単位薬価帯別の出荷調整の数量状況

限定出荷状況を2023年度の単位薬価帯(10円単位)別にみると、10円未満の限定出荷数量が多く、後発医薬品は10円以上～20円未満も限定出荷数量が多い。

日本製薬団体連合会「医薬品供給状況に係る調査(2023年6月)」において
限定出荷・供給停止・出荷停止予定となっている製品の薬価帯別の納入数量構成比



※その他は、昭和42年以前に承認された医薬品、局方品、漢方エキス剤、生薬、生物製剤(ワクチン、血液製剤等)など

出典:日本製薬団体連合会、エンサイス株式会社

安定確保すべき医薬品の医薬品卸に係る流通コストと流通不採算について (基礎的医薬品・安定確保医薬品カテゴリA・B)

安定確保すべき医薬品では納入価格を上回る流通コストが生じており、多くが流通不採算品となっている。

	対納入価 コスト率*	不採算品目の割合*	
		包装単位別 品目数	流通金額
基礎的医薬品	107.3%	77.9%	81.5%
安定確保医薬品 カテゴリA	104.9%	77.8%	73.1%
安定確保医薬品 カテゴリB	102.7%	62.7%	45.4%

医薬品卸の機能
所有権移転機能 取引先決定、商品選択、価格交渉、取引条件設定、売買契約、代金支払い
リスク負担機能 保有在庫による需給調整
物流機能 仕入、保管、品質管理、小口化、流通加工、取揃え、配送、品質不良品回収
情報伝達機能 販売促進、営業、経営支援、市場調査、販売データ分析
金融機能 債権・債務の管理、回収管理
需給調整機能 欠品や出荷調整の際の需給調整、代替品の確保・提供
有事の際のライフライン機能 災害・パンデミックの際の医薬品の供給確保

*コスト=売上原価+販売費及び一般管理費(各社管理会計におけるコスト配賦により算出)

出典:クレコンR&C社による広域卸・地域卸数社への2023年8月時点の調査結果、公益財団法人医療科学研究所「医薬品流通問題研究プロジェクト報告書」(2023年4月)5

日本医薬品卸売業連合会による医療用医薬品を主に扱う会員構成員企業人事部を対象とした
「医薬品卸の新卒採用・離職・背景に係るアンケート調査」結果
 (2023年9月 回答企業45社 医療用医薬品を主に扱う会員構成員企業すべて)

人材難の中でも、特に、将来の流通現場の中核となる若年層人材の確保の厳しさが明らかになっており、離職においては、出荷調整への対応が大きく影響している。

● 新卒採用状況

	増加傾向にある	どちらとも言えない	減少傾向にある
過去5年間の新卒採用における応募者人数の傾向	0社	11社 (24%)	34社 (76%)

● 離職状況

	増加傾向にある	どちらとも言えない	減少傾向にある
過去5年間の若年層人材の離職者数の傾向	29社 (64%)	15社 (33%)	1社 (3%)

	大いに影響している	どちらとも言えない	あまり影響していない
若年層人材の離職における出荷調整の業務負担の影響	27社 (60%)	14社 (31%)	4社 (9%)

ヘルスケア産業プラットフォーム（医薬・医療機器・医薬品卸・OTC・化粧品関連労働組合政策推進協同協議会）

「医薬品卸の退職（転職）実態に係る緊急調査」

（中間報告：8月22日時点の2,740名の回答）

医療提供体制の維持のために使命感を持ってきた医薬品卸の現場担当者も、出口の見えない出荷調整への対応で心身の負担が限界にきている。

過去1年間に退職（転職）を検討した理由（若手層のコメントを抽出）

20代 男性 営業職	後発品の品切れが多すぎる状態が、もう3年以上続いているにも関わらず、一向に改善が見られず仕事に対するモチベーションが保てなくなっている。
20代 女性 営業職	出荷調整による緻密な在庫管理、毎日の謝罪、メーカーさんの代わりにひどく怒られることも多々あります。本来の営業の仕事ができていなく、精神的な疲労や労力と給料があっていないと強く感じます。
20代 男性 営業職	医薬品業界自体、将来性が無いように感じる人が多い。メーカーと協力して、新規採用に繋がっても、すぐに出荷規制がかけられ、また卸に怒りの矛先が向けられる。
30代 女性 事務職	コールセンター所属です。お客様には謝り続け、会社からは理想ばかりを押し付けられ、かといって給料やボーナスはなく、改善も見られません。苦しいと訴えても寄り添う振りをされるばかりで毎日が苦痛で何も楽しくないです。人としての価値や存在意義が軽視されていると常に感じています。

現状分析と意見

現状分析

- 薬価改定による単価の下落、物価高騰、2024年問題、担い手不足への対応に取り組みながら、これまで医薬品卸は医療提供体制の維持のために、社会インフラとしての役割と使命感をもって尽力してきたが、限定出荷に係る負担は、医薬品の持続的な安定供給の重大なリスクとなっている。
- 医療用医薬品市場において薬価20円未満品の品目数(包装単位別)が49%を占め、金額(薬価ベース)では10%を占める。
- 限定出荷数量の86.2%は薬価20円未満に集中している。
- 安定確保すべき医薬品では納入価格を上回る流通コストが生じており、多くが流通不採算品となっている。このため、今後の供給に支障を生ずるリスクを常に抱えている。

意見

- 2024年度の薬価改定に向けて、流通不採算が持続的に安定供給に与えるリスクの観点を考慮し、薬価20円未満の医薬品・安定確保すべき医薬品の薬価引上げを検討していただきたい。
- 今後の検討に当たっては、これまで当連合会が主張した意見を踏まえていただきたい。
 - 中間年の薬価改定は、廃止の是非も含めて検討し、実施するとしても、少なくとも平均乖離率を上回るものを対象とし、できる限り限定された品目とすべきである。
 - 流通改善の道筋や薬価制度改革の全体像が描けない中で、調整幅だけを議論することは適切ではない。
 - 医療上の必要性が高いとされる医薬品の薬価を下支えする仕組みなど、採算性を維持できるように薬価制度を見直していただきたい。